

第 27 回

奈良市ごみ焼却施設移転建設計画策定委員会

日 時：平成 21 年 8 月 25 日（火）

午後 6：00～

場 所：奈良市人権啓発センター 3 階大会議室

次 第

開 会

1. 議 事

- (1) 第 26 回策定委員会議事録概要版の確認
- (2) ごみ焼却施設の候補地選定について
- (3) その他

閉 会

(事前配付資料一覧)

資料 5 6 第 2 6 回策定委員会開催概要及び議事録概要版 (案)

資料 5 7 最終候補地区の選定方法について (案)

最終候補地区の選定方法について(案)

【第 26 回策定委員会での主な意見】

候補地区の比較評価について、以下の様な意見が示されました。また、それぞれの意見への修正対応について示します。

[I] 比較評価方法の整理について

1) 候補地選定における評価項目の再考について

1. 大項目での小項目の数を 3 個に統一する必要なし。

各評価項目を最もふさわしい大項目に入れるよう、項目の分類を見直しする。

2. 評価項目の追加と併せて、各項目の評価基準を整理する必要がある。

(詳細は、[II] 評価項目の整理について を参照)

2) 重み付けの方法について

各委員からの回答表により、集計するのではなく、策定委員会の公開の場において、委員全員で議論して考えていくべき。

(意 見)

・委員ごとに重み付けをし、それが各委員でばらばらになると、委員会としてのまとまりがなく、検討結果を委員会の総意としづらいのでは。

・ばらつきが出たのであれば市民が理解できる説明付けをしていけばよい。

3) 7 段階評価における点数の付け方について

7 段階 (1 ~ 7 点) で評価すべき項目と、7 段階ではあまり評価点数の開きが大きすぎる評価項目も考えられるため、評価項目によっては評価の配点幅を限定する必要がある。

(意 見)

・生活環境や自然環境でまずいところは省いてきており、残っているのは合格点以上のところしかない。そこであまり差が付くようでは疑問をもたれるのではないか。

・逆を言えば、経済効率面で収集運搬コストが高くなる遠方の地域は排除されており、生活環境や自然環境の評価にばらつきが出てもよい。

[II] 評価項目の整理について

【用地取得の難易度】

1) 「パブコメ意見」という言葉が不適當である。

→ 「パブコメ意見」については、「移転に対する意見の提出状況」に改めます。

[経済効率]

- 1) ・経済効率について、「用地買収コスト」は◎と△で20億の差があり、10倍の開きがあるのに対し、「敷地造成コスト」は倍も開きがないのに1点と7点が付くのはおかしい。
・経済効率は差が自明であり、事務局で重み付けの案を出せる。

→ 各小項目の評価は、それぞれの項目ごとにその中での相対評価のため、他の項目との評価バランスは、重み付けで考慮することとしてきました。しかし、経済効率の項目については、概算であるもののコストという形で数値化が可能な部分もあることから、これらについて事務局案を示します。
(参考資料-2を参照)

- 2) 「廃棄物処分場の有無」は、土壌汚染対策等の必要性を経済効率の項目として評価すべき。処分場は一廃と産廃があるのでそれぞれの評価の違いを検証すべき。

→ 「廃棄物処分場の有無」を経済効率の項目に移動。土壌汚染対策は、処分場のシステム、埋立廃棄物の種類、性状と、これに伴う汚染範囲、汚染状況などにより必要な措置が異なります。一概に産業廃棄物最終処分場といっても、実際の埋立廃棄物の性状等を把握する必要があり、現段階でそれぞれの処分場について具体的な検証を行うことは困難です。このため、“対策が必要となるおそれ(リスク)”として、「廃棄物処分場の有無」を評価します。

[生活環境]

- 1) 東部地域からの要望は、渋滞の増加を危惧したものであり、施設が立地することによる道路交通への影響を評価項目に加えるべき。

→ 道路交通の問題については、部会を設けて検討してきており、この中で主要アクセス道路における交通混雑の影響を整理しています。この検討結果を基に、「道路交通への影響」を生活環境にかかる評価項目に加えます。
(参考資料-3を参照)

- 2) ・市民のごみ持ち込み時の利便性については、25回委員会の議論では収集運搬コストと合わせて重み付けに配慮することとしたが、奈良市は市民のごみの施設持込が非常に多く、ごみ処理を直接見る機会が啓発に繋がり、市民参加となることから、持込の利便性を評価項目に加えるべき。
・各家庭が施設にごみを持ち込むのは市の収集に比べエネルギー効率的には非効率となる。持込の搬入車が多いときには2時間程度行列することもあり、奨励すべきことではない。

→ 「収集運搬コスト」は市街地から近ければコストが下がり(評価が上がり)、遠くなるほどコストが上がる(評価が下がる)のに対し、持込の利便性は、市街地から近ければ相対的な利便性が高くなり、遠くなるほど利便性が低くなります。持込の利便性が高くなることについては、啓発の面からプラスとする意見と、(持込量の増加に繋がるため)エネルギー効率面(CO₂等環境負荷の増加)からプラスでないとする意見があります。ただし、利便性が高くなること=持込の距離が短くなる(環境負荷が減る)こと

でもあり、搬入待ちの状況が改善されればプラスに働くことも考えられます。

したがって、持込行為の是非はありますが、市民サービスの観点から生活環境にかかる評価項目として「市民持込の利便性」を加えます。

- 3) ・「他市との近接状況」の評価基準があいまいであり、説明がつきにくい。
- ・他市は近接すると手続きが煩雑になるというマイナス面はあるが、他市との共同処理が考えられるとなるとプラス面も考えられる。
 - ・他市の動向にもよるため、現段階ではマイナスともプラスとも判断がつきかねる。

→ 「他市との近接状況」については、ご指摘のとおり両面の評価が考えられ、現段階での評価が困難であることから、項目を削除します。

[自然環境]

- 1) ・「土地利用現況」で、農地利用と廃棄物処理場が同一の評価をされるのはよろしくないのでは。
- ・「土地利用現況」は開発行為に伴う森林の減少等の量的な変化、「用途指定状況」は指定解除等の法的手続きの必要な質的な変化として考えれば評価しやすいのでは。

→ 「土地利用現況」については、森林の減少に繋がる新たな開発の必要性について、既に開発がなされている土地であるかを評価している項目であり、まさしく量的な変化の有無の評価です。このため、現況で立地するのが何であるかに関わらず、同一の評価を行うべきと考えます。自然環境の項目については、ご指摘の量的、質的な変化の有無を基準として評価基準を改めます。

[その他]

- 1) 評価基準には、これまでの選定で除外してきた世界遺産や病院、学校などの条件を文言として入れ込むべきではないか。

→ 最終選定の評価項目は、これまでの検討における絶対的な選定条件（可否の判断）の結果、絞り込まれた候補地区を、相対的に比較評価するための項目であり、これまでの選定条件は必ずしも評価基準表になじむものではないと考えられます。

候補地の比較評価基準(案)

比較評価項目					
評価の指標		評価の考え方	7段階評価の基準	備考	
用地取得の 難易度	土地の所有者数	用地取得に伴う土地の権利者数を評価した。 ※施設整備に必要な10haあたりの所有者数は、最小で1、最大で54であるため、8人きざみで右記の区分とした。	7点 10haあたりの所有者数が8人以下 6点 10haあたりの所有者数が9～16人 5点 10haあたりの所有者数が17～24人 4点 10haあたりの所有者数が25～32人 3点 10haあたりの所有者数が33～40人 2点 10haあたりの所有者数が41～48人 1点 10haあたりの所有者数が49人以上		
	移転に対する意見の提出状況	施設移転(中間報告)に対して市民からの意見の提出状況を評価した。	7点 移転に対する誘致がある。 6点 移転に対する賛成意見が出されている。 5点 4点 移転に対する意見の提出がない。 3点 2点 移転に対する条件提示がなされている。 1点 移転に対する反対意見が出されている。		
	候補地の応募状況	公募により地権者から応募が得られた土地について評価した。	「移転候補地の応募による比較評価」を参照 (参考資料-1)		
経済効率	施設整備にかかる費用	施設建設、用地買収、電気、上下水道、敷地造成、取付道路の整備に係る費用を評価した。	「経済効率面による比較評価」を参照 (参考資料-2)		3,4,5点の範囲で評価する
	維持管理、収集運搬にかかる費用	施設の維持管理、収集運搬の費用を評価(稼働年数を仮に30年と想定)した。	「経済効率面による比較評価」を参照 (参考資料-2)		
	廃棄物処分場の有無	土対法等の制約を受けるおそれがある廃棄物処分場の立地の有無を評価した。	7点 6点 5点 立地していない。 4点 区域の一部に廃棄物処分場が立地している。 3点 比較的広い区域に廃棄物処分場が立地している。 2点 1点		3,4,5点の範囲で評価する
生活環境	住宅の近接状況	住宅地からの近接状況について、候補地区周辺の住宅地の立地状況を評価した。	7点 候補地の周辺に住宅地は少ない。 6点 5点 候補地周辺の1方位に住宅地が点在する。 4点 3点 候補地周辺の2方位に住宅地が点在する。 2点 候補地周辺の3方位に住宅地が点在する。 1点 候補地の周辺を取り囲むように住宅地が存在する。		
	施設配置の制約	候補地形状・面積及び周辺の土地利用状況より、候補地内における施設配置に当たっての制約の有無を評価した。	7点 6点 5点 候補地形状・面積及び周辺状況より、施設配置上の制約が少ない。 4点 候補地形状・面積及び周辺状況より、施設配置に一定の制約がある。 3点 候補地形状・面積及び周辺状況より、施設配置上の制約が多い。 2点 1点		3, 4, 5点の範囲で評価する
	道路交通への影響	施設の立地による周辺の主要道路における混雑度及び将来の増加率を評価した。	「道路交通への影響による比較評価」を参照 (参考資料-3)		
	市民持込の利便性	市民のごみ持込の利便性は、持込の距離に比例すると想定される。このため、収集運搬コストにより、相対的な市街からの距離が短くなる候補地区を優れていると評価した。 ※収集運搬コストの比は、最小で1.14、最大で1.58であるため、0.2きざみで右記の区分とした。	収集運搬コストが、最小となる都跡校区との相対比率より、 7点 6点 5点 1.27倍以下 4点 1.28～1.48倍 3点 1.49倍以上 2点 1点		3, 4, 5点の範囲で評価する
自然環境	土地利用の現況	施設整備にあたり新規の大規模な開発により自然環境を損なうおそれがあるか、現況の土地利用から想定される開発を要する土地の割合を評価した。	7点 既に現状の大部分を他用途の利用に供されており、新たな森林伐採の必要が少ない。 6点 現状の10%程度を山林が占めている。 5点 現状の30%程度を山林が占めている。 4点 現状の50%程度を山林が占めている。 3点 現状の70%程度を山林が占めている。 2点 現状の90%程度を山林が占めている。 1点 現状の大部分を山林が占めており、整備にあたり一定の森林伐採が必要。		
	用途指定の状況	農振農用地・保安林に指定されているか、風致地区に近接しているか、施設整備にあたり用途指定の解除等の必要性を評価した。	7点 農振・保安林の指定、風致地区の近接ともない。 6点 5点 一部に農振の指定があるが指定面積が少ない。 4点 農振・保安林の指定、風致地区の近接のいずれかがある。 3点 一部に保安林指定があり、風致地区に近接している。 2点 2種類の用途指定がある。 1点 農振・保安林の指定、風致地区の近接ともにある。		

第27回策定委員会開催概要及び議事録概要版

件名	第27回 奈良市ごみ焼却施設移転建設計画策定委員会	
日時	平成21年 8月25日 (火) 18:00~20:04	
場所	奈良市人権啓発センター 3階大会議室	
出席者	委員	片山信行、木内喜久子、國領弘治、阪本昌彦、笹部和男、佐藤真理、田中啓義、田中幹夫、三浦教次、元島満義、森住明弘、安田美紗子、山口裕司、山口清和、吉岡正志、吉田隆一、渡邊信久
	事務局	岩井部長、西村次長、息田次長、仲参事、西山工場長、吉住課長、松本補佐、森嶋補佐、平木主任、川内
	コンサル	館田剛志、大木雄介
記録作成者	奈良市施設課	
配布資料	資料56 第26回策定委員会開催概要及び議事録概要版 (案) 資料57 最終候補地区の選定方法について (案)	
会 議 内 容		
<p>開 会</p> <p>部長挨拶</p> <p>1. 議 事</p> <p>(1) 第26回策定委員会議事録概要版の確認</p> <p>(2) ごみ焼却施設の候補地選定について</p> <p>(3) その他</p> <p>閉 会</p>		

議 事 要 約 内 容	
事務局（森嶋）	● 今回は奈良市ごみ焼却施設移転建設計画策定委員会の第27回目の会合です。委員会開会に先立ち、新しい委員の方をご紹介します。先日、奈良市自治連合会に於きまして、役員の改選がございました。新連合会長に就任されました、山口清和様を新たに、当策定委員会の委員としてお迎えすることになりました。よろしくお願い申し上げます。
山口委員	● 山口です。よろしくお願い致します。
事務局（森嶋）	● よろしくお願い申し上げます。また、岡本委員に於かれましては、市議会議員の任期満了に伴い、市議を勇退され、本策定委員会の委員も辞任届が提出されましたので、ご報告申し上げます。委員会開会にあたり、岩井環境清美部長より、ご挨拶を申し上げます。
岩井部長	「部長挨拶」
事務局（森嶋）	● 本日の出席状況ですが、委員総数21名の内、12名ご出席頂いており、本日の委員会は成立していることをご報告申し上げます。尚、郡篤委員長、今井委員に於かれましては、ご欠席される旨の連絡を頂いてます。 議事の進行につきましては、渡邊委員長代理にお願い致します。
渡邊委員長代理	1. 議事
事務局（森嶋）	● 今日の資料確認から始めたいと思います。 「資料確認」
渡邊委員長代理	(1) 第26回策定委員会議事録概要版の確認
事務局（森嶋）	● 資料56の第26回の方の策定委員会議事録が概要版ですけれども、事務局の方には何か修正点等、申し入れは入ってますか？
渡邊委員長代理	● 現在のところ、特に頂いておりません。
事務局（森嶋）	● 皆様、何か気付くことがありましたら、見直しをしたいと思います。特になければ、自動的に承認されたものしたいと思います。
渡邊委員長代理	(2) ごみ焼却施設の候補地選定について
事務局（吉住）	● 今日は資料57。段々と煮詰まってきた訳ですけれども、読み直しまして、議論をしたいと思いますが。資料57につきまして、事務局から今日の説明、よろしくお願い致します。 ・「最終候補地の選定方法（案）」（資料57）の説明。 前回の26回策定委員会での意見と修正方法を整理。
渡邊委員長代理	● ⑨-2の候補地及び隣接場所で、12haの土地を購入された代理人の方から土地の提供の相談頂いたが、募集期間外で受付していない旨の報告。 ● 各候補地に点数を付けて、どこがふさわしいか合意形成していこうということです。評価の基準としては、大項目とその中の各論ということで、話がまとまったものが、資料の「候補地の比較評価基準（案）」となり、大項目、

	<p>小項目について検討しましょうというところまでいきました。以前、3段階かな5段階かなとやりましたが、物によってはどんぐりの背比べで、物によってはすごく差があるだろうということで、7段階で評価をしようということになり、7段階の割り振りで、前回色々意見が出てきた訳です。資料57の最初の頁が前回意見の概要ですが、事務局で、改編を入れた案が、今回の候補地の比較評価基準案です。例えばこの経済効率の施設整備に関わる費用のところだと、どんぐりの背比べで、そんなに大きな開きにはならんだろうと。一方で収集運搬だと、すごく大きな差だろうという話になる訳であります。どんな数字が割り当てられたかの一覧が資料IV-2です。これをそれぞれの項目に重み付けの点数をつけて、順番を付けていくということです。</p> <p>皆様から頂いた意見を元に、事務局で作った資料ですが、これでOKと言われるか、修正が必要という意見もあると思います。比較評価基準案について、ご意見を賜りたいと思います。</p>
森住委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 移転に対する意見の提出状況は前より言葉が変わったんですが、用地取得の難易度との関連性が薄い訳で、この項目は、住民の理解度のところに入れる項目ですから、省いた方がいいんじゃないかと思います。東部地区連合会からは、渋滞するから考慮してほしいということで、用地取得の難易度との関係はない訳です。もう一つは、自分の所にくるのが反対だという意見が非常に多かったが、用地取得の難易度ではなくて、住民の理解度のところで評価すべき項目です。移転に対する意見の提出状況と用地取得の難易度との関連性が薄くなることははっきりしたので、この項目は、あとで評価する住民の理解度に移して、省いた方がいいと改めて思いました。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 住民の理解度は、今回の評価ではなくていくつかの場所を絞って地元と話をするようになってからの話ですね。頂いている意見は2つあって、1つは絶対反対というのと、もう一つは渋滞するから、その配慮をしてもらいたいと、大きく分けてこの2つで、用地取得とは、さほど関係がないと。買えるかどうかとは別ということです。
田中(啓)委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 私も同意見です。提出意見は、意見があったかなかったかではなく、どういう理由で意見があったか中身を分析するべきだと思うんです。交通渋滞は生活環境・道路交通の影響というところですね。絶対反対というところも、住宅地が近いということで反対されている訳で、実質的に生活環境の住宅の近接状況で判断されてる訳です。ほかの所に書いてあるので、住民の御理解ということで、次の段階になるので、ここであげるのは適正じゃないなと思いました。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 適切じゃない場合は、この小項目を削除するということですね。これを削除した状態で評価をして、用地候補がもう少し絞られてから話をすべきで、他の項目とも重複もあるということですね。今すぐ即決しないで。もう暫くしてから、考えたいと思います。

事務局(吉住)	<p>細かく見ていきますと、例えば、経済効率で3、4、5で評価すると書いてますが、資料Ⅳ-2で見ると、どこにも4がなくて、3、3、5、5、5となっているが、何故なんですか。</p>
事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● 点数の付け方として、最大と最小の開きがどれ位あるかということと、3点、4点、5点を基本条件にして、5億刻みで整理させて頂いたと。4点到該当する場所がなかったということです。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 収集運搬は、前回と変わってないんですか。7と1が混在している、すごく幅のある数字になってる訳ですね。
事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● 25億円刻みで7段階評価させて頂きました。例えば、施設整備にかかる費用を、7段階評価をしますと概ね2億5千万位で、段階評価することになりますので、維持管理・収集運搬コストにかかる費用に比べると、差が少ないということで、3点から5点の範囲で評価させて頂きました。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路交通のところは参考資料-3、もう一度説明お願いします。
事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● 道路交通への影響について説明(参考資料-3)
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 結構難しい話で、各候補地があって、候補地の周りで代表的な交通センサスのデータがあるところを選らんで、複数あるんですね。例えば⑨-1、2ですと、No.6とNo.7両方ある訳ですね。
事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● この地図で、黄色の場所が、現在9カ所の候補地区であります。赤の★印で表示してあります所が、奈良県が5年に1回、交通量の測定をされ、交通量並びに道路の混雑度が、公表されてます。その道路に対して、仮に候補地を持っていった場合、その★印の道路に、どれだけ車の台数が増加するかを、増加率で計算させて頂いて、現在の交通の混雑度と、将来の増加率を合わせて評価し、7段階評価で評価点を入れさせて頂いています。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● この絵で、③-4ですと、赤い★の⑨で評価をするんですよね。⑤-1ですと、赤い★の14と2と、この両方に影響あるから、点数の低い方、すなわち混雑が大きくなる方を採用すると…。
事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● はい。そういうことです。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 今あまり混んでないところに、ごみ焼却炉ができると、増加率は1.4倍となり、評価点が1になる訳ですね。前は、増加率だけで評価をしようという話だったけれども、今、混んでるところは、ごみ関係の車が入ってきても、あんまり影響を受けないけれども、元々混んでるという話でありました。これを両方とも意見を加味すると、1と7を足して2で割ると4になるということだと思います。 <p>パブリックコメントのところを削除してはどうかという話がありましたが、いかがでしょう。これは、住民の理解度というところで、今後の話であるので、今ここでは入れる必要はないということと、それから他との重複が大きいので、削除したらどうかという話がありました。特に異議がありませんでしたら、削除をしたいと思います。次は重み付けの話をしたいと思うんですけども…。</p>

森住委員 事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● その前に申請があった話、もう少しお願いします。 ● 土地の所有者の意向が大事で、昨年の秋と今年の4月の2回に分けて、土地所有者の方々に、ご連絡させて頂いて、申出を受け付けさせて頂きました。HP等にも掲載してありますが、今回、新たに土地の相談ということで、7月の下旬に、⑨-2の候補地区および隣接地で、西側ですけども、公募上の面積で、12haの土地をごく最近購入された方の代理人がご相談に来られました。土地を提供してもいいというお話を頂いてますが、すでに募集期間からだいぶ経っているので、正式に申請書での受け付けは、してません。相談がありま
渡邊委員長代理 事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● これは⑨-2の中にばっちり入っている訳じゃなくて、はみ出してる？ ● ⑨-2の場所に入っているところもありますし、全体で行けば入ってない区域の方が多かったということです。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在、参考資料-1によりますと⑨-2については、10万平方メートル。10haあるんですよね。これとは別に話があった訳ですね。 手続き的にあとからのものについて、同じように受け付けるもどうかと思いますが、⑨-2も土地としては候補に挙がってますので、今回はすぐ動くということは、我々はしなくてもいいと思うんですが。
吉岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 2回公募して、線引き済んでますから、それに対して考慮は今のところしなくてもいいと思います。割り切ってるほうがいいと思います。
渡邊委員長代理 事務局(仲)	<ul style="list-style-type: none"> ● 手続き踏んでやっていますので、報告で済ませておきたいと思います。 ● 公募が終わってますけど、協力してくれる土地が広がったという形で、評価していく上において、プラスアルファと考えて頂ければと思うんです。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 現在⑨-2で10haが一つあるので、10が20になるという感覚で考えたらいいかもしれない。 先程の重み付けの話ですが、30、30、25、15と事務局から案を、出して頂いた訳ですが、意見を頂きたいと思います。
田中(啓)委員 事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局の方から根拠をいいですか。 ・ 事務局根拠説明。 移転候補地選定における重要な要素ということで4つ。 ①土地所有者の意向。②経済効率がいい。③周辺地域への環境面の配慮。 ④周辺の住民の方々との合意形成(将来的には重要な要素)。 用地取得の難易度については30点、経済効率の所も同じく30点、環境面からの配慮である生活環境に25点。自然環境に15点、合わせて環境面の配慮として40点の配点し、合計100点とした。小項目は5点刻みで配点し、叩き台として、提示させて頂きました。
田中(啓)委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 大項目に絞っての意見で、事務局案も一つの考え方だとは思いますが、生活環境と自然環境が25と15と区別してありますが、これがいいのかということが一点です。生活環境は、ミクロ的な視野だと思うんです。人間のミクロ的な周辺住民の生活とマクロ的な広範囲の人間の生活と、どちらを重視するの

<p>渡邊委員長代理</p>	<p>かは差別すべきでないという気もします。生活環境と自然環境を同じに扱うのも一つの考え方じゃないかと思いました。</p> <p>次に、事務局は生活環境と自然環境を合わせて1本化したことで、経済効率よりも大きいポイントを挙げておられる訳ですが、経済効率と同じという考え方もあれば、環境の方は、重要だということであれば、経済効率、生活環境、自然環境を同じ点数に分配するのも一つの考え方かなと。経済環境、生活環境、自然環境は、一旦絞り込み作業をしてるということが言えるんですが、用地取得の難易度については、初めての絞り込みという意味で重視するのは、一つの考え方だと思うんです。そうすると40、20、20、20も一つの考え方だ思ってるんです。</p>
<p>田中(啓)委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 40、20、20。その理由は上の用地取得の難易度40以外の所については、すでに絞り込んだあとのものだから、評価は少なくてもいいというご意見。経済効率と生活環境、自然環境は、それぞれ同等だろうと言ってましたね。
<p>森住委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● どっちかが重要だというのじゃなく、ミクロ的に言えば生活だけ、マクロ的には自然という意味です。差別することはできないんじゃないかと。 ● 基本的には、田中さんの考え方には私も賛成なんですが、生活環境と自然環境と、この言葉自身を修正した方がいいと思います。他の2つは少なくとも難易度とか効率とか、尺度を持っています。環境への影響度にしてはどうですか。中項目で、生活環境・自然環境にする。点数配分はこれから皆で議論したらいいと思います。
<p>田中(啓)委員 元島委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 私は中間項目設けた方がいいと思います。 ● この委員会として、まちづくりという観点から、奈良市としては歴史的事業をやろうとしている中で、重み付けの配点について、特徴的なものを残したという配点をするとしますと、30、30、30とかは何も特徴になるようなものはないとなるかも分かりません。例えば25点、15点は古都奈良としては、生活面を重視したとか、自然環境を十分重視という観点で配点をして抽出したという、付記事項を残したいという考え方です。
<p>笹部委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 配点としては、事務局の案でいいんじゃないかなと思ってます。すでに絞られてるところと絞られてないところというのは、当然考え方で差があってしかるべきだと思うんです。一定の時期までに移転せんといかんということだったら、用地取得の難易度は非常に重要なものになるでしょうし、奈良市の財政状況見てたら、経済効率を非常に重視すべきだろうと思ってます。
<p>田中(啓)委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 4項目の中で、今まで絞り込んできたものは、20、20、20平等でしていると。環境を一括りにした場合は、20と40になる。大項目で比較すると環境が2倍重視になります。公害調停で環境を重視するという観点でやってきて、生まれた委員会という経緯からも、20対40が特徴になってます。
<p>佐藤委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 環境を重視し、生活環境と自然環境を環境への影響として、40とするという意見ですが、中項目を立てなくても、生活環境への影響、自然環境への影響で足りると感じますので、環境面に40位配点することは、用地取得の難易

	<p>度を30、事務局案を30と、30・30にするのか、40・20にするのかなんですが、事務局案の方が却ってよくないのかなと。ここは用地取得の難易度と対比で、経済効率は抜きに考えられない、奈良市の経済状況も非常に厳しいということで、事務局のように30にして、用地取得の難易度は、ここで決まると思うんでね。大項目のところ40にする必要もなく、そこで実際に決まってくるんだろうと思うんで。むしろここを最初から大きくすると、地元の意見だけで、左右されることにもなり、誤解も与えるので、配点は全体の中では3割程度ですよとした上で、絞られた対象地域の方々と懇談の機会も持たせて頂いて、OKとならなければ用地選定できない訳ですから、40と大きく広げるのは、どうなのかなと感じます。結論的に、私は事務局案の方がいいという気は致します。</p>
森住委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 用地取得の難易度で、これまで4地区から応募したいと上がってる訳です。点数差も7点と1点と、差がついてますから、難易度という観点から、40点分も配分する必要がないと思うようになりました。事務局案でいいと思います。
田中(啓)委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 確かに私もそれで結構だと思います。事務局案で行くとすると、特徴を表すという意味で、環境という項目を一括りにして、30より多くした40をまず見せて、中項目では、25、15じゃなくて、20、20がいいと思いました。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 結果的に事務局が最初に配分した30・30で、あとまとめて40。このまとめ方については意見一致をみておりませんが、用地取得の所を40・20にするか、30・30にするかというところ。将来的なことを考えると経済効率のことも、重要視しているという意思表示をするべきであると。この委員会の発足の発端は、環境であったということから、一番大きくて40という表現は妥当かと思います。将来的な見通しを考えると経済効率はすごく大きいし、土地が買えるかどうか、大事な問題であるということで、30・30・40という事務局の示した数字が妥当性があると、ご意見がある訳です。項目が6つは多すぎるように見えないし、ここで自然、自然と強く言わなくても、生活及び自然環境に与える影響とか、項目名を少し変えるだけで、6つまとめてしまっても、そんなに体制に影響はないと思うんですが。
田中(啓)委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 配点の仕方ですけど、現存の人間と将来の地球ということで、配点を半々にした方がいいんじゃないかと思います。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 説得力のあるご意見でありまして、現在に対して20、将来に対して20と割り振るのがフェアじゃないかと聞き取れます。
吉岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局の案が出てくると、変えたいですが、変えにくいところがありまして、用地取得の難易度と経済効率を合わせたものと環境への影響度は、6対4になってるんですね。それを分解して用地取得の難易度で30、経済効率で30と。これいい線かなと。
阪本委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 我々が策定委員会で、一番重要視してきたのは、住宅への近接状況。今現在の左京の清掃工場の道路一本隔てて、住宅あるいは小学校が隣接しておる

	<p>所は絶対避けねばならないと思ってます。土地取得の難易度、経済効率を60%ウェイトを占めて、決して生活環境や自然環境を低く見積もっているのではないことの根拠を欄外に付け加えて頂いたら、お分かり頂けるのではないかと思います。</p>
A委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 奈良の都を作るときに大化の改新以降、相当飛躍的なまちづくりをやってきた訳ですね。だけど最近の土地基盤整備は、奈良の場合、手遅れになっています。都市計画とか土地利用計画はきちっとできておれば、今悩むことは、本当はなかったんですね。都市的な施設の位置付けとか整備、土地利用、農地あるいは森林、あるいは都市の整備をきちっとやって頂ければ、ごみ処理場の設置に対する問題は起きなかったという感じは致します。自然環境とか生活環境を環境という形で括り、あとは経済性の問題、効率の問題。用地の取得の難易度は、手を挙げてくれたからここに決めましたというよりも、少し点数を減らしてでも、環境を重視的に、施設の配置を決めた。あるいは経済性を中心に、奈良らしい施設の配置を決めたとした方が、委員会の役割としては、いいんじゃないかなと。
佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 片山さんの意見には賛成です。私はこの並べ方を、ひっくり返して、環境・経済・用地取得と入れ替えたらどうかと思います。あまり賛成を得られなかったら、このままでいいと思うんです。環境への影響を40にするということで、皆さん言われてますが、その内訳で、生活環境と自然環境で、自然環境のウェイトを落としてはダメだということと言われたんですが、小項目の議論の所で、意見を反映するような形だったらいいので、生活及び自然環境への影響という形で括って、40を配置すると。どうウェイトするかは、次の小項目の議論でやったら足りるんじゃないのかなと。敢えて2つを、中項目で平等に分ける必要はないのかなと思います。
田中(啓)委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 順番を並べ変えることで、クリアするということで、私もいいと思います。点数については、用地取得を30に落とすのに賛成にまわりました。経済効率と環境問題は、一旦は絞り込んでるのにも関わらず30点40点を配点してるという意味合いにおいて、一回も絞り込んでないのに30点しか配点していない用地取得の難易度は、他のものをより重視しなかったという注釈ができ、言外にそちらを重視したというところが見えると思います。あと6個に分けるということですが、小項目に初めから分解しちゃうと小項目の一つ一つの項目同士の争いになってしまうので、見易くするためには、小項目に行く前に、中項目での議論を経る形をとった方がいいと思います。
三浦委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 清掃工場移転してほしいという一番の原因が、住宅に近接してること。近隣にあることが、住民の安全確保に問題があるということで、移転ということ、私どもが要望した訳です。用地取得の難易度は、土地を手に入れやすいか入れにくいかなという基準で、大項目で多くの点数を配分するは、いかなかなと思います。生活及び自然環境に対する問題が第一であるべきで、奈良市の財政を考えれば、経済効率を当然重視していかなければいけないが、候

	<p>補地を最終的に決めて、相手の立場を考えたときに、住民の安全確保が第一じゃないかなど。買い易い、買いにくいというのは、この委員会の問題じゃない気がします。配点も用地取得の難易度はもう少し低くして、生活及び環境に配慮したという形の方に点数を重きを置いたらいいかと思いますが。</p>
<p>渡邊委員長代理</p>	<p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実は、心配していることがありまして、こういう調子で小項目の方も配点を決めてしまいますと、候補地区の7段階評価の数字決まっていますので、どこの地域になるかというのがズバッと決まってしまうんです。以前から特に森住委員が強く言われている、地元が決まったと突然いくと、こじれることはよくあると聞いてるのですが、どうなるのがまずくて、どうなるのがいいんでしょうかね。
<p>森住委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● その前に、大項目の項目を一つ追加したいことを思いつきました。環境への評価というのは、全部悪い評価です。評価度が大きいと悪い。むしろ、どの地区も今より少なくともよくなるんだということを、1項目入れて、私達の姿勢を示すといいますか、注釈じゃなくて、項目を追加した方がいいと今気が付きました。まだ項目を変更しますから、この数字が決まった所で、最終決まりません。 <p>こういう公開の席で、私達が決定しますと、マスコミの方が先に、私達が地元伝えるよりも先に新聞で地元伝える訳です。そうすると、私達の思いが必ずしも十分に伝わらない。何も状況を知らないのに、寝耳に水で、非常にショックに感じられる訳です。地元で配慮しなかったと評価されますから、少なくとも、決定する時には、地元で利害関係が絡むことですから、非公開にして、少なくとも数カ所に絞り込まれた段階で、地元にお伝えする訳です。それが終わってから、公開した方が地元の方にとっては、受け止め方に怒りが伴わないと思います。</p>
<p>佐藤委員 森住委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 一つ追加というのが分かりにくかったので、もう少し。 ● 環境への影響度が大きいと悪い点になってくる訳です。むしろ悪い影響は与えないものを造りたいということを積極的に言おうとしたら、注釈じゃなくて、項目を入れた方がいいと思ったんです。
<p>佐藤委員 森住委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 表現どうするんですか。 ● 地区の将来像とか、地域の環境のプラス面の言葉を選び重み付けはたくさんしておく。しかし地域で差がつかないから、どこも同じ点になる訳です。そうすれば、私達の姿勢が分かるんじゃないかと思っただけです。
<p>笹部委員 森住委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 今の環境の中に入れるんですか。 ● 環境でいいじゃないですか。良くなる方の影響を書いておくと。私達、よくする責任を負ってるんだということを表明しておいた方が、弁解しなくてすみませぬ。
<p>渡邊委員長代理</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● それは次回、もう少し話をしたらいいかと思いますが。非公開の話ですけ

<p>事務局（仲）</p>	<p>どね。実は僕も寝耳に水っていうのは避けないといけないなど。ごみの、突然、知らない時に、新聞に載ったりしますと、色々あると思うんですね。それで何も知らなかったではまずいなというお話をお伺いをしました。小項目の重み付けの数字を、完全に決めてしまいますと、その時点で自動的に計算できてしまいます。その時は、この委員会、非公開という形にして、次の公開の会議の場までに地元にお伝えすると。とにかく先に伝えておくということを考えたい訳ですが。公開が原則でしたよね。非公開は、すぐには決められないと思うんですが、事務局の方で、決まりがあると思うので、調べておいてもらえませんか。次回が10月1日で、公開なんです。市民だよりに掲載されるはずで、非公開にできるかどうか、考えたいと思うんです。</p> <p>● 非公開という話は、調べさせていただきます。利害関係が絡んでくるので、非公開ということも必要かと思えます。今度10月1日は公開で、次の市民だよりに載せていきますが、来月9月は、議会が始まりまして、10月1日に、仲川市長が、一度この場で挨拶をして頂きたいと思ってます。委員長代理の方からでも、今までこの委員会の経過とその重要性を市長に話をして頂いて、市長の考えを聞いて頂く場を設けたいと思ってます。非公開につきましては、10月1日の日に、ご報告させていただきます。</p>
<p>渡邊委員長代理</p>	<p>● その時は今までの経緯の説明をして、市長の方針も聞いたらいいと思えます。小項目を決めるときは、基本的には、非公開はなるべく一回という方針で進めたいと思えます。</p>
<p>吉岡委員</p>	<p>● これから地元と話していかなきゃならんと思うんですけど、ボタンの掛け違いが一番困る訳で、何も知らずにマスコミに出ることによっていらぬ火種が起こって反対運動が起きるということは、絶対避けたいなど。こそこそ決める訳じゃないんですけども、非公開で決めて頂いた上で地元でどういう形で話をするか検討をしなければなりません。</p>
<p>佐藤委員</p>	<p>● 結論的にはやむを得ないと思えます。今重要な局面に、この委員会さしかかっています。今回は選挙でマスコミが来てないが、おそらく次回は、多数来られることも間違いないので、小項目を確定すれば、自ずと決まりますから、例外的ですが、絞った段階で、遅滞なく、委員会として直接お伝えをするということをした上で、公開の所でマスコミの方も含めて明らかにするのが、スムーズにいくと思えますので、小項目について、ここで結論出すときのみ、一時的に、非公開でやるという取扱いに私も賛成です。</p>
<p>渡邊委員長代理</p>	<p>● 非公開にするというのは、結構正当な理由だと思うんですよ。公開原則ではありますけれども、非公開が認められると思えますので、10月1日には報告を頂きたいと思えます。</p>
<p>事務局（仲）</p>	<p>● 十分に調べさせていただきます。先に日を決める訳ですか。それとも10月1日に日を決めた方がいいですか。</p>
<p>渡邊委員長代理</p>	<p>● 次回10月1日に、決まっていますけれども、その次決まってないですよ。例えば、11月後半位に今決めておいて、10月1日に、この日は非公開にします</p>

事務局(吉住)	<p>と決められます。市民だよりとかに結構縛られますよね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 今回も公開で、傍聴人の参加ということで、公表してHP、市民だよりに載せてますが、非公開の場合は、市民だよりに載れない締切の日が設定された場合は、それに代わる対応をする必要があると考えます。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 形としては市民だよりに非公開と載せることがいいと思います。それは1回あったと、後に残る形として、第何回を非公開で行いますと。正々堂々とやってほうがいいように思います。
事務局(吉住)	<ul style="list-style-type: none"> ● 情報公開の要綱等を再度調べさせて頂いて、次回の委員会でご説明できたらと思います。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● 10月1日以降に、非公開と書けるように11月終わり位ですか？少し時間必要ですね。
事務局(仲)	<ul style="list-style-type: none"> ● 非公開として、地元話をしにいくと言われてますので、事務局として、対応を考える時間がほしいので、1ヶ月は空けて頂きたいと思います。
渡邊委員長代理 佐藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 次々回は、11月13日の金曜日はどうでしょうか。18時から。 ● 次回が、10月1日公開で行われますので、大項目も今日、決めきらなくていいと思うんですが、最後の方で、プラスのイメージのもの地域への貢献等の言葉を入れて7つにしたらどうかという提案や、また同じ40の中でも、現在の問題と将来との問題で半々位にしたらどうかという意見もあったのですが、今日の議論では、詰め切れてないので、事務局また整理して下さい。
田中(啓)委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 三浦委員とか阪本委員の意見を考えると、用地取得の難易度が20点、経済効率30点、生活環境30点、自然環境20点。これ位なんじゃないかなと思うんですが、これも入れて頂きたいなと思いました。
笹部委員	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域がよくなるという話ですけども、そのことがもう少し具体的に分かるようなものを準備しておかんと、単によくなるとだけ入れると、逆にかなり怒られることになるのじゃないかなと思うんです。
渡邊委員長代理	<ul style="list-style-type: none"> ● それは、また次回に詰めたいと思います。 <p>7段階評価の数字、今回は煮詰めてやりましたので、これでまとまったかとは思いますが。次回大項目と小項目のさわり位までと、市長と話ができればいいかなと思っております。非公開の方、よろしくお願ひします。これで終わりますでしょうか。</p>
事務局(森嶋)	<ul style="list-style-type: none"> ● 皆さま方には長時間に渡り審議を頂き、誠にありがとうございました。なお、次回策定委員会は10月1日木曜日の開催でございます。よろしくお願ひ申し上げます、本日はこれもちまして閉会とさせていただきます。